

## 開催概要

生成AI技術は「過度な期待のピーク期」にあると言われている。しかし破壊的なテクノロジーの出現は、必ず不可逆な変化をもたらす。それはソフトウェア開発と運用においても例外ではない。そこで本イベントでは、エンジニア組織が、開発と運用の課題を解決しつつ、新しい価値を生み出すためにAIをどう活用すれば良いのかを探る。

## セミナー1 10:00～10:50

タイトル DevOpsが無くなる日!? ～生成AI時代のIT組織～

講演者 ウルシステムズ株式会社 代表取締役会長 漆原 茂 氏

講演概要 あなたは生成AIを使うか、それとも生成AIに使われるか？

本格的にAIがIT業務に活用できる時代では、これまでのDevOpsは無くなるかもしれない。

クラウドネイティブ開発やSaaSの利活用が当たり前となった未来のIT組織を考察する。

【講演内容】 生成AIの技術基盤の急速な進歩 ⇒ GPT3.0の価値が2024.2Qには無くなってしまった。今はGPT4.0。GPTの知能は既にメンサで120? 以上になったと言われている。

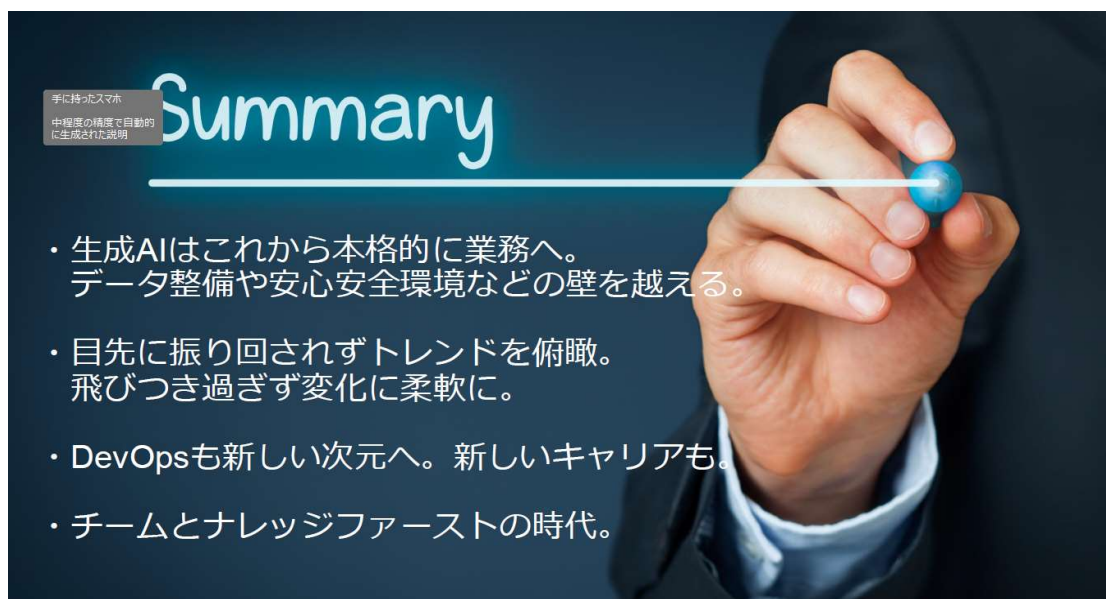
これから注目されるAIの技術は

- ・エキスパートAI 専用の目的に特化したAI。
- ・SLM組み込みのオンプレ=スモール言語モデル データを外部に出したくない中小企業。
- ・Embodied AI 組込AI=ロボティクスと一体になったもの。
- ・コージョナルAI 因果推論が可能なAI 数式の証明が可能。物理、化学への応用が期待される。
- ・マルチエージェント連携=AI同士が連携して機能する。
- ・AIがAIを教育する。簡単なものはすでに作られている。
- ・AIの安心、安全を考慮する技術。
- ・AIの倫理。善悪の判断。すでに国が規制を考えている。

- ・生成AIへの期待は幻滅期に入った。
- ・業務への統合はできたか？ ・技術の進化が早すぎて、やり直しが多い。 ・ブラックボックスとのやり取りに疑問？ ・RAGの活用は本当に有効か？ ・役立つデータの整備が重要。量より質。
- ・DevOpsの相棒を生成AIとすれば一人で開発業務が可能になる。
- ・AIの開発ツールが多数出現するだろう。

・コンウェイの法則：

AIの時代でもナレッジとチームワークが何よりも重要。うまく機能しているチームは壊すな。



手に持ったスマホ  
中程度の精度で自動的に生成された説明

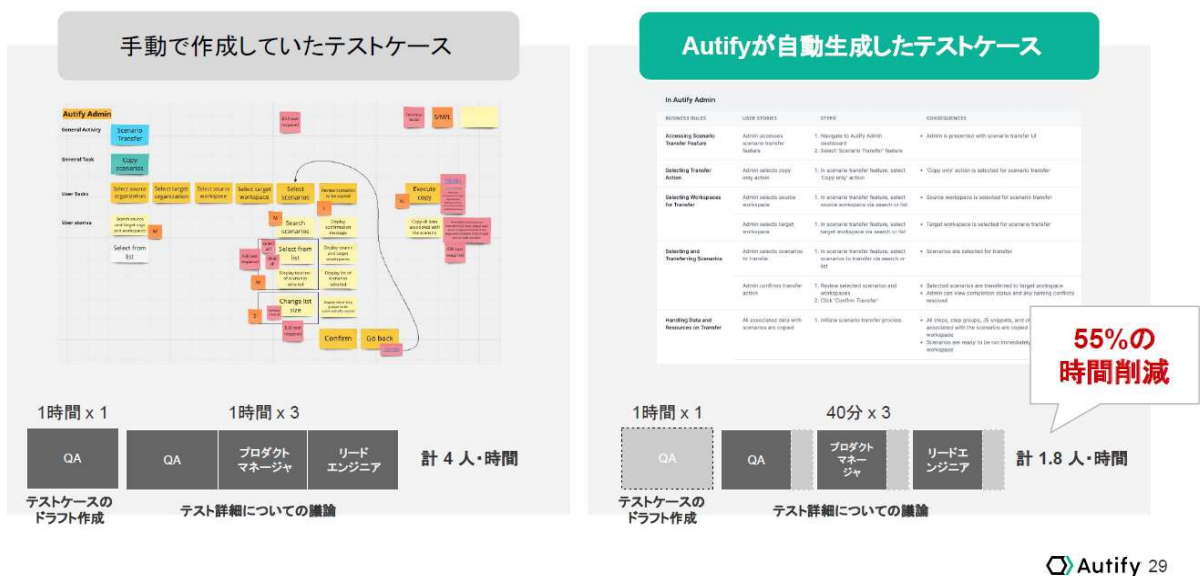
# Summary

- ・生成AIはこれから本格的に業務へ。データ整備や安心安全環境などの壁を越える。
- ・目先に振り回されずトレンドを俯瞰。飛びつき過ぎず変化に柔軟に。
- ・DevOpsも新しい次元へ。新しいキャリアも。
- ・チームとナレッジファーストの時代。

【感想】 確かに生成AIは使いこなすフェーズに入ってきた。  
生成AIは何だろうから、こういうものだ、だからこうしようというフェーズチェンジを実感することが重要だ。

**セミナー2 10:55~11:35**  
**タイトル** AIが変革するシステム開発  
**講演者** オーティファイ株式会社 代表取締役CEO 近澤 良 氏 エンジニアリングマネージャー 松浦 隼人 氏  
**講演概要** AIが大きく注目されており、多方面の活用、生産性の向上が期待されている。特にシステム開発はその親和性から大きな改善ができると期待が寄せられている。生成AIを活用しているAutifyでは、200時間以上業務時間を削減した。結果が示すようにテストへ生成AIの活用とその未来において、Autifyがどのようにテストワークフローを変えられるのかをご紹介します。

【講演内容】 Google の翻訳ソフトが劇的に向上し、翻訳家が不要になった。人とAIの共同作業で生産性をアップすることができる。  
 AIがソフト開発に浸透している。生産性が120%向上したという報告もある。  
 AIが下地を作り人間がそれを修正する。特にソフトウェアのテスト作業にAIが活用できる。



【感想】 ソフトウェアのテストは従来から人間の手に頼らないと難しかったことは事実だが、AIを利用するにしても、当たり前だが実績が大事になる。

**セミナー3 12:00~12:30 [クラウドWatch Day]**  
**タイトル** 生成AI+コンテンツ管理=ナレッジ基盤  
**講演者** 株式会社Box Japan プロダクトマーケティング部 エバンジェリスト 浅見 顕祐 氏  
**講演概要** 企業が持つ情報の90%は非構造化データ(コンテンツ)と言われている。そして、企画資料、技術文書、レポートなどのコンテンツには、その企業の「ノウハウ」や「叡智」が言語化され、凝縮されている。これを個人の「知」として終わらせてしまうのか、組織の「知」として再利用できるようにするのか？生成AIをフル活用できるBoxだからこそできる、ナレッジ基盤の作り方をご紹介します。

【講演内容】 ビジネス用コンテンツを管理するクラウド サイバー攻撃に対応している。  
 コンテンツの管理はどうなっている？ デジタル化されているが、管理方法は5年前と同じ。  
 ファイルの共有化は進まず、分散管理されている。  
 生成AIによりファイル管理が従来の管理枠を超えてしまった。例えば回答が管理権限を越えてし

もう。そこで  
総てのAPPデータは必ずBOXに入るような仕組みを作った。  
英文を日本語で質問しても回答が可能な生成AI連動型のストレージ。  
AI融合によりコンテンツ融合はナレッジ基盤へと進化している。

【感想】 確かに技術、環境は進んでいるが肝心の使う人の頭は進んでいない。つまり、使い方、管理方法が変わらないので、相変わらず同じ問題に悩んでいる。

セミナー4 13:00～13:30 [クラウドWatch Day]  
タイトル 中堅SIerが取り組む生成AIの導入と活用戦略  
講演者 株式会社ISTソフトウェア ITサービス企画本部 ITサービス企画部 部長 谷中 大樹 氏  
講演概要 システム開発・自社サービスなど幅広く手掛ける中堅SIerのISTソフトウェアでは、全社員の約6割が生成AIを活用している。この状況に至るまでの取り組みや、全社で生成AIを利用できる環境の構築と活用率を上げるための方法をご説明する。本内容が、皆さまの生成AI導入への課題を解消するヒントになれば幸いだ。さらに、システム開発のQCDを向上させるための生成AI活用について、今期の具体的な取り組みを実例と共にご紹介する。

【講演内容】 どのように導入をしてきたか？

- ・利用環境を提供した。
- ・活用方法をレクチャした。
- ・守るべきことを文書化した。

【結論】

1. 全部自動化は難しい。
2. 社員のサポート。
3. 使いこなすことが重要。



【感想】 オーソドックスな導入方法と言う感想だ。

セミナー5 13:45～14:15 [クラウドWatch Day]  
タイトル <他のシステムとは違う！>間違いのない生成AIインフラの選択  
講演者 デル・テクノロジーズ株式会社 AI Pursuit APJ/AI BDM | AI Specialist 東 政孝 氏  
講演概要 生成AIのインフラはこれまでの他のシステム導入とは異なる点が多い。  
GPUが中心になるのは間違いがないが、GPUだけを基準に選択すると、GPU性能とシステム全体の性能に乖離が生まれる。また、そのGPUの進化もこれまでの他のコンポーネントと比較して激しいためキャッチアップも難しい。常に正解が変化していく選択の難しいこの領域で、最新の生成AI状況をもとにスムーズで間違いのないインフラ選定をご紹介する。

【講演内容】 経産省がAI活用の支援をしている。  
パブリックよりオンプレの方がメリットがある。DELLはオンプレのソリューションを提供できる。  
ファンデーションモデルの利用からRAG やファインチューニングでの利用が増えている。  
実際はGPU がネックではなくネットワークがネックになる。

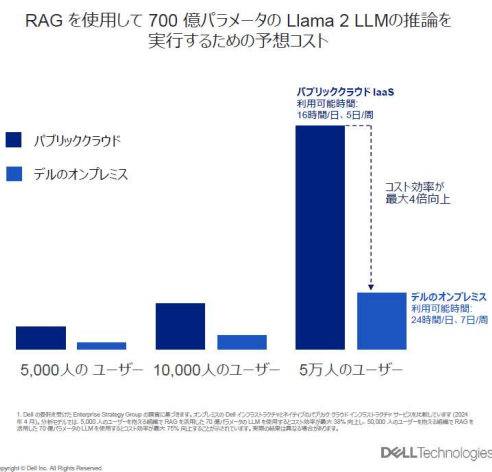
**LLMによる推論ではコストが大きな考慮事項となる**

デル・テクノロジーズは、Enterprise Strategy Group (ESG) に委託し、オンプレミスの推論 LLM の予想コストをデル・テクノロジーズのインフラストラクチャとパブリッククラウドの IaaS および API サービスと比較する調査を実施しました。

デル・テクノロジーズは、3年間にわたって、最大で次のような推論コストメリットを提供できます。

**4倍** パブリッククラウド IaaS のコスト差

**8倍** トークンベースの API サービスより高いコスト効率



【感想】 DELLの主張ではオンプレの生成AIの方がコツとメリットがあるとのこと。当然こうなる。

**セミナー6 14:30~15:00**

**タイトル** 生成AIのDevOps活用とLLMアプリの効率的な監視、改善、保護

**講演者** Datadog Japan合同会社 シニアデベロッパーアドボケート 萩野 たいじ 氏

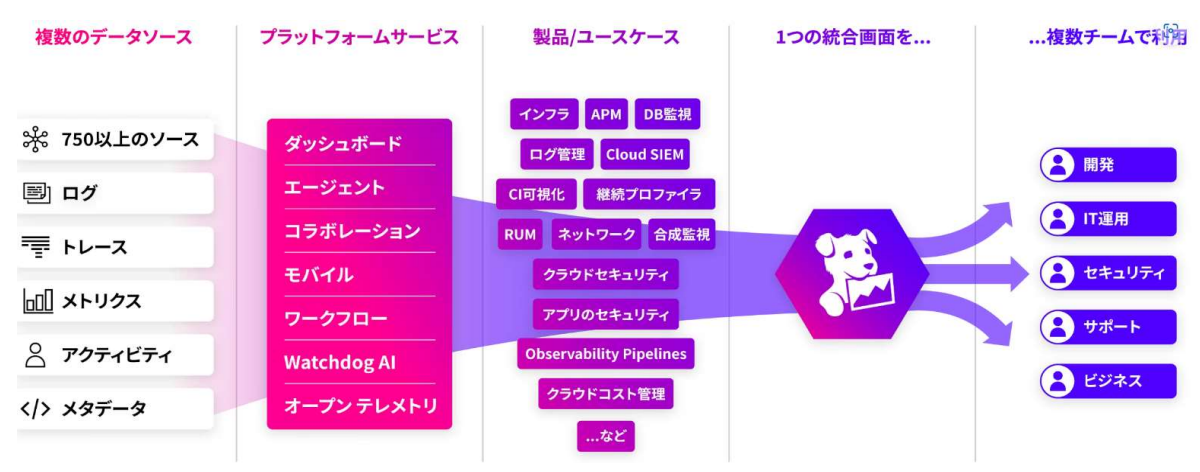
**講演概要** 生成AI・LLMをDevOpsに活かすことと生成AIを監視して提供品質やセキュリティを担保することが大きな課題だ。本セッションではオブザーバビリティとセキュリティの統合基盤であるDatadogを用いたAIOpsと生成AIの監視についてご紹介する。ハルシネーション防止やユーザー感情の観測などでLLMアプリケーションを効率的に監視、改善、保護する方法を学びましょう。

【講演内容】 LLMアプリの監視改善・保護  
 モニタリングツール  
 結局すべてのサービス業は生成AIの導入をせざるをえない。

【必要な監視機能】

AIの監視	AIで監視	
プロンプトを監視	最適化の判断	トラブル
サービスパフォーマンスを監視	複雑さ	パフォーマンス
可視化して監視	品質	コスト
	コスト	安全性

【DataDogの機能】



【感想】 クラウドがベースになるとこのような機能も必須になる。とても全体を見通すことはできない。

セミナー7 15:15～15:45

タイトル LINEヤフーの生成AIへの取り組み、LY SeekAIサービスの技術の全貌

講演者 LINEヤフー株式会社 SIグループインフラ統括本部/本部長 Yin Lei 氏

講演概要 LINEヤフーは、生成AI技術を活用した独自の業務効率化ツール「SeekAI」を全従業員に本格導入した。このセッションでは、RAG（Retrieval Augment Generation）技術を駆使して構築された「SeekAI」の技術的背景とその実用性について詳しくご紹介する。

【講演内容】

RAGを使って質問に答えるツールを開発した。

業務の効率化を目的とした。全社で70～80万時間効率化ができた。

アジャイル開発ではほぼ毎週マイナー修正の機能リリースをした。

新規開発の60%は失敗。30%は放棄される。RAGの正答率は40～50%といわれている。

原因

過大な期待。完璧を求める。検証不足。フィードバックが不十分。縦割り組織の壁。

**生成AIは素晴らしいが万能ではない。**

生成AIに求められるもの

プラットフォームeng. セキュリティ & ガバナンス

開発チームに求められるもの

部門間の協力。PoCプロセス。

課題

正解はない。従来の方法で検証する。ユーズケースを特化して改善する。評価データを準備する。

アップデート計画

データソースの拡大。マルチモーダル。システム連携。

【感想】

LINEヤフーでも現状はこんなところだろう。生成AIだからと言って必ずうまくいくものではない。

セミナー8 16:00～16:40 [クラウドWatch Day]

タイトル 生成AI導入推進の鍵。いま企業に求められる「生成AI人材」の育成

講演者 一般社団法人生成AI活用普及協会（GUGA）事務局次長 小村 亮 氏

講演概要 多くの企業が生成AIの導入を検討・推進する昨今。しかし、AIツールの導入後、「利用率の壁」に直面する企業が増えている。本講演では、国や企業の動向、未来予測をもとに、いま企業に求められている「生成AI人材の育成（生成AIリスクリング）」について解説する。AIリテラシーとスキルの違いを理解し、生成AI導入推進の次の一歩を考えるきっかけにしたい。

【講演内容】

生成AI パスポート試験

AI関連予算 1640億

AI戦略会議 内閣府 官房副長官 村井 英樹 氏

広島AIプロセス

**AI時代の知的財産権 日本は国として本気で生成AI 活用を推進する。**

【企業の動向】

- ・ 関心はあるが人材がない。・ 非エンジニア人材のリスクリング。
- ・ 生成AIの利活用が採用、転職の採用条件。
- ・ 大学・院卒者の80%以上がDX、AIに関するスキルを取得したい。

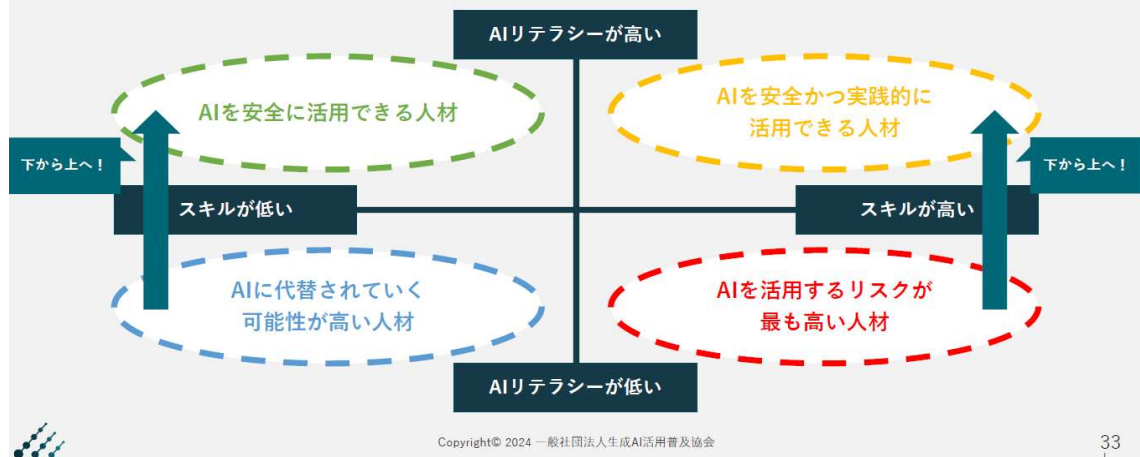
生成AIの台頭により、AIは「作る」ものから「使う」ものへと変化。  
 技術職を中心に扱われていたAIを、誰もが使えるようになったことで、「AIの民主化」が進む。

	従来のAI	生成AI
主な関わり方	作る	使う
主な対象者	技術職 (エンジニア/データサイエンティストなど)	すべての人
主な技術	ディープラーニング	事前学習済み大規模モデル (基盤モデル)
重要なこと	いかに精度の高いモデルを作るか	いかに付加価値を高めるために使うか

人材育成の第一歩 テクノロジーが進化し続けている時代は学び続けることが大事。  
 生成AI のリスク ・ 誤情報 ・ 個人情報漏洩 ・ 知財パブリシティ ・ 不正競争防止法

「生成AIリスクリング」の前提となる4タイプの人材

スキルのみ高い人材はリスクを把握できておらず、トラブルを招く可能性が最も高い。  
 AIリテラシーを高め、安全に生成AIを活用できる土壌を整えることが重要。



不安を払拭するためにも 生成AI パスポートの受験をお勧めする。

GUGA ご案内資料 一般社団法人生成AI活用普及協会

[https://member.guga.or.jp/hubfs/guga\\_deck.pdf](https://member.guga.or.jp/hubfs/guga_deck.pdf)

【感想】

何かの基準となる資格は必要かもしれないが、それがこれか？

以上